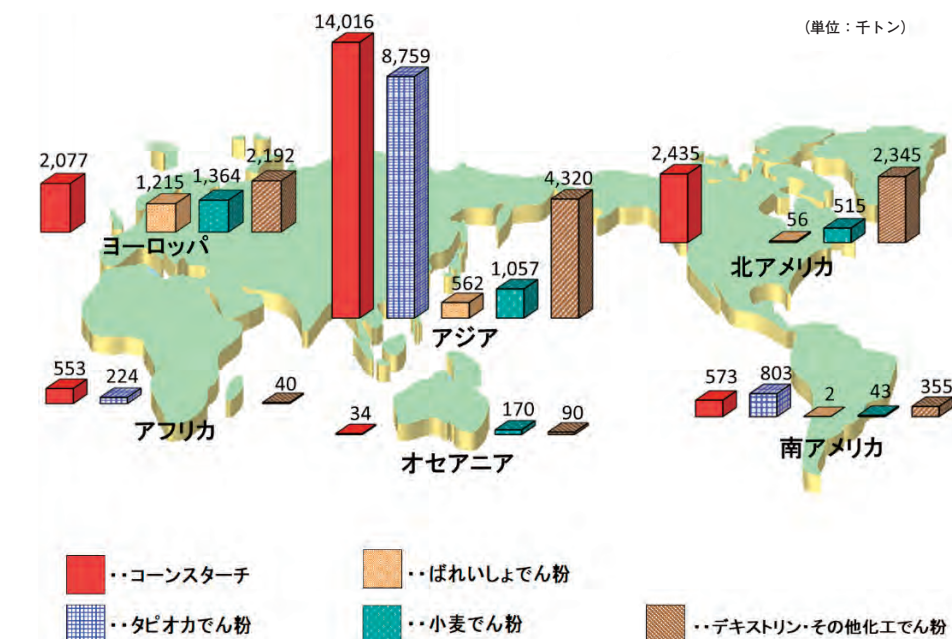


でん粉の国際需給

調査情報部 荒川 侑子

1. 世界のでん粉需給

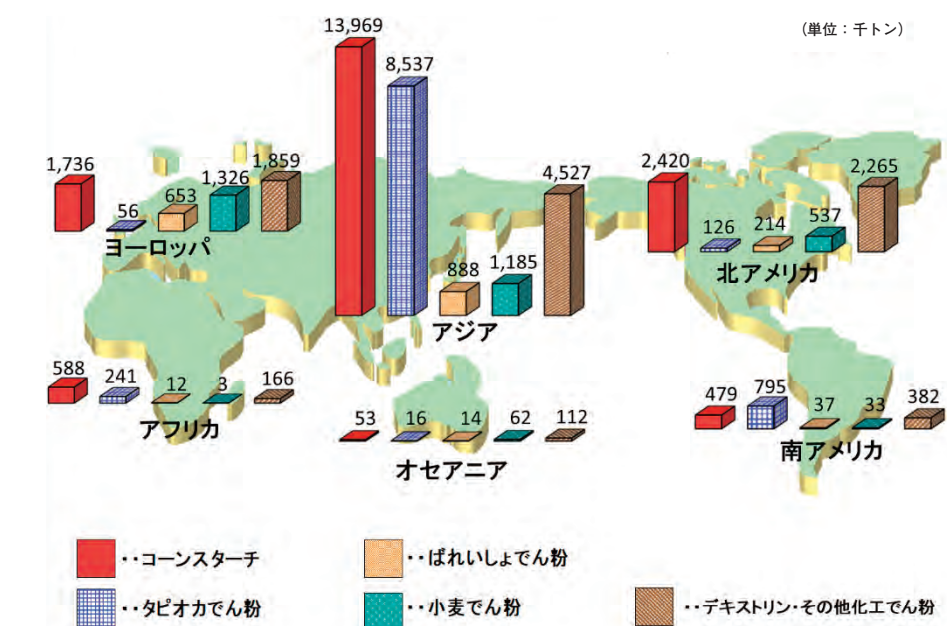
図1 絵で見る世界のでん粉生産量 (2020年)



資料: LMC International* 「Global Starch Supply & Demand Research Report」を基に農畜産業振興機構作成
 (*農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社)

注: ヨーロッパには、ロシアを含む。

図2 絵で見る世界のでん粉消費量 (2020年)



資料: LMC International 「Global Starch Supply & Demand Research Report」を基に農畜産業振興機構作成

注: ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 トウモロコシ相場およびキャッサバ取引価格

年・月	シカゴトウモロコシ・期近（セント/BU）			タイキャッサバ（パーツ/kg）	
	高値	安値	平均値	キャッサバ 農家価格	チップ 卸売価格
2015年	433.50	347.75	376.57	2.16	6.78
2016年	437.75	301.50	358.36	1.52	5.66
2017年	392.25	329.50	359.29	1.40	5.14
2018年	408.50	330.25	368.07	2.38	6.85
2019年	454.75	340.75	383.21	1.89	6.30
2020年	484.00	302.75	363.31	1.80	6.52
2020年12月	484.00	414.75	435.47	2.05	7.21
2021年1月	547.00	483.75	515.39	2.03	6.64
2	563.75	534.50	549.97	2.07	6.80
3	565.00	539.25	552.80	2.13	7.06
4	740.00	553.25	616.07	2.08	7.09
5	772.75	620.25	697.39	1.92	7.09
6	720.00	633.00	672.41	1.91	7.31
7	719.75	547.00	605.08	1.97	7.52
8	568.25	534.00	552.23	2.02	7.53
9	539.50	495.75	518.60	2.12	7.47
10	568.25	512.25	536.63	2.08	7.38
11	586.75	551.50	570.89	2.19	7.44
12	614.75	572.00	591.48		7.61

資料：CME Group、タイ農業協同組合省、タイ商務省

注1：1ブッシェル（BU）は約25.401キログラム。

注2：タイキャッサバのチップ卸売価格は、アユタヤ県とチョンブリー県の価格を単純平均したもの。

注3：タイ農業・農業協同組合銀行（BAAC）研究・イノベーション開発センターによると、輸出需要の高まりなどにより、キャッサバ製品価格は上昇傾向で推移しているものの、2022年1月はキャッサバ収穫の最盛期を迎えるため、価格は下落する可能性がある。

2. 日本の品目別主要輸入先国の動向

本稿中の為替レートは2021年12月末日TTS相場^(注)の値であり、1米ドル=116円（116.02円）、1タイバーツ=3.51円、1ユーロ=132円（132.01円）である。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の月末TTS相場。

トウモロコシ・コーンスターチ

世界

【需給動向：トウモロコシ】

2021/22年度の世界のトウモロコシ期末在庫、前月予測からわずかに下方修正されるも、19/20年度の水準を維持

米国農務省世界農業観測ボード(USDA/WAOB)および米国農務省海外農業局(USDA/FAS)は2022年1月12日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した(表2)。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は、12億696万トン(前年度比7.5%増、前月比0.1%減)とされ、先月に引き続き史上最高の水準となることが見込まれている。国別に見ると、単収の引き上げによりウクライナが200万トン、作付面積の引き上げにより米国が135万トン上方修正された。一方、ラニーニャ現象による乾燥気候の影響で単収が引き下げられたブラジルが300万トン、同様に

アルゼンチンが50万トン、それぞれ下方修正された。

輸出量は、世界全体で2億420万トン(同13.8%増、同0.3%減)とされた。国別に見ると、生産量で上方修正のあったウクライナが100万トン上方修正された一方、主要輸出国との競合などにより米国が190万トン下方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8681万トン(同0.3%増、同0.7%増)とされた。主要生産国の中では、生産量で下方修正のあったブラジルが30万トン上方修正された。

消費量は、世界全体で11億9612万トン(同5.2%増、前月並み)とされた。国別に見ると、エタノール向け需要が引き上げられた米国が203万トン、ウクライナが100万トン上方修正された一方、アルゼンチンが50万トン下方修正された。

この結果、期末在庫は、前月から247万トン下方修正の3億307万トン(同3.7%増)とされたが、2019/20年度に近い在庫水準が見込まれている。

表2 主要国のトウモロコシの需給見通し（2022年1月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(12月予測)	(1月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
期首在庫	56.41	48.76	31.41	31.36	▲ 35.7%
生産量	345.96	358.45	382.59	383.94	7.1%
輸入量	1.06	0.62	0.64	0.64	3.2%
消費量	309.55	306.54	313.20	315.23	2.8%
輸出量	45.13	69.92	63.50	61.60	▲ 11.9%
期末在庫	48.76	31.36	37.94	39.11	24.7%
アルゼンチン					
期首在庫	2.37	3.62	1.62	1.12	▲ 69.1%
生産量	51.00	50.50	54.50	54.00	6.9%
輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	13.50	14.50	14.00	3.7%
輸出量	36.25	39.50	39.00	39.00	▲ 1.3%
期末在庫	3.62	1.12	2.63	2.13	90.2%
ブラジル					
期首在庫	5.31	5.23	5.23	5.23	0.0%
生産量	102.00	87.00	118.00	115.00	32.2%
輸入量	1.65	3.50	1.70	2.00	▲ 42.9%
消費量	68.50	71.00	73.00	73.00	2.8%
輸出量	35.23	19.50	43.00	43.00	120.5%
期末在庫	5.23	5.23	8.93	6.23	19.1%
ウクライナ					
期首在庫	0.89	1.48	0.83	0.83	▲ 43.9%
生産量	35.89	30.30	40.00	42.00	38.6%
輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	6.40	7.10	6.90	7.90	11.3%
輸出量	28.93	23.86	32.50	33.50	40.4%
期末在庫	1.48	0.83	1.45	1.45	74.7%
中 国					
期首在庫	210.18	200.53	205.7	205.7	2.6%
生産量	260.78	260.67	272.55	272.55	4.6%
輸入量	7.58	29.51	26.00	26.00	▲ 11.9%
消費量	278.00	285.00	294.00	294.00	3.2%
輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	-
期末在庫	200.53	205.70	210.24	210.24	2.2%
世界計					
期首在庫	322.37	306.27	292.69	292.23	▲ 4.6%
生産量	1,119.71	1,122.83	1,208.73	1,206.96	7.5%
輸入量	167.77	186.31	185.45	186.81	0.3%
消費量	1,135.81	1,136.87	1,195.88	1,196.12	5.2%
輸出量	172.34	179.36	204.86	204.20	13.8%
期末在庫	306.27	292.23	305.54	303.07	3.7%

資料：USDA/WAOB [World Agricultural Supply and Demand Estimates]

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月／ウクライナ、中国：10月～翌9月／アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

米 国

【需給、価格動向：トウモロコシ】

2021/22年度の米国トウモロコシ期末在庫、生産量の上方修正を受けて、前年度比24.7%増

USDA/WAOBは2022年1月12日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは、次の通りである（表3）。

生産量は、作付面積の引き上げにより、151億1500万ブッシェル（3億8394万トン^{（注1）}、前年度比7.1%増、前月比0.4%増）とわずかに上方修正された。前年度からかなりの程度増加する見込みであり、これまでの統計で最も生産量の多かった2016/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）に近い水準となっている。

消費量は、主にエタノール向け需要の引き上げにより、124億1000万ブッシェル（3億1523万ト

ン、同2.8%増、同0.6%増）とわずかに上方修正された。

輸出量は、主要輸出国との競合などにより24億2500万ブッシェル（6160万トン、同11.9%減、同3.0%減）とやや下方修正され、記録的な輸出量となった前年度からかなり大きい減少が見込まれている。

期末在庫は、生産量の上方修正を受けて、15億4000万ブッシェル（3911万トン、同24.7%増、同3.1%増）とやや上方修正された。

この結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は10.4%（同2.1ポイント増、同0.3ポイント増）とされ、10月予測から引き続き10%台を保っている。

また、生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり5.45米ドル（632円。1キログラム当たり24.9円）と前月対比で据え置かれた。

（注）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

表3 米国のトウモロコシの需給見通し（2022年1月12日米国農務省公表）

区 分	—単位—	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度			前年度比 (増減率)
				(12月予測)	(1月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.7	93.3	93.4	37.8(百万ヘクタール)	3.0%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.3	85.1	85.4	34.6(百万ヘクタール)	3.8%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	171.4	177.0	177.0	11.1(トン/ヘクタール)	3.3%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,111	15,062	15,115	383.94(百万トン)	7.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	24	25	25	0.64(百万トン)	4.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,236	1,235	31.36(百万トン)	▲35.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,055	16,323	16,375	415.94(百万トン)	2.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,068	12,330	12,410	315.23(百万トン)	2.8%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,900	5,602	5,650	5,650	143.52(百万トン)	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,286	6,466	6,680	6,760	171.71(百万トン)	4.5%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,028	5,250	5,325	135.26(百万トン)	5.9%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,777	2,753	2,500	2,425	61.60(百万トン)	▲11.9%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	14,821	14,830	14,835	376.82(百万トン)	0.1%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,493	1,540	39.11(百万トン)	24.7%
期末在庫率	(%)	13.7	8.3	10.1	10.4		2.1ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.53	5.45	5.45	24.9(円/kg)	20.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

【貿易動向：トウモロコシ】

10月の輸出量、前年同月からはやや、前月からは大幅に増加し、価格は下落傾向

米国のトウモロコシ輸出量は2021年4月以降、減少傾向が続いていたものの、2021年10月は383万192トン(前年同月比3.7%増、前月比49.4%増)と前年同月からはやや、前月からは大幅に増加した。同月の主要国別輸出量は、表4の通りである。

また、同月の輸出価格(FAS^(注))は、1トン当たり269.5米ドル(3万1262円、同47.6%高、同3.0%安)と前年同月から大幅に上昇したものの、2020年9月から11カ月連続で上昇していた価格は7月をピークに反転し、前月に引き続きやや下落した。

(注) Free Alongside Shipの略。貨物を船側に付けた段階で支払われる(FOB価格から横持ち料(倉庫間の移動費)、積み込み料、保険料などを差し引いた)価格。

表4 米国のトウモロコシ輸出量(10月)

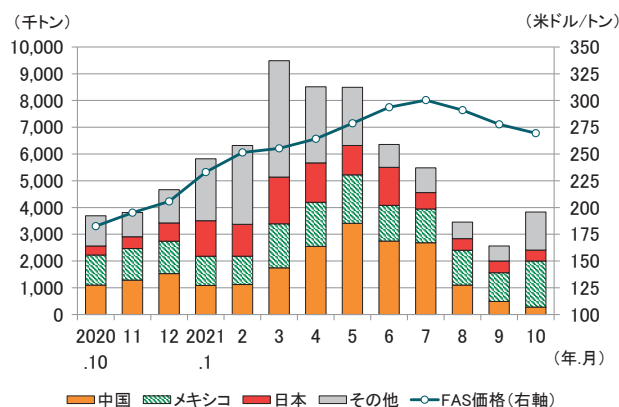
輸出先	輸出量(トン)	前年同月比(増減率)	前月比(増減率)
合計	3,830,192	3.7%	49.4%
うち メキシコ	1,719,716	53.3%	60.6%
コロンビア	564,783	80.3%	4.5倍
日本	408,440	19.4%	▲6.7%
中国	280,947	▲74.5%	▲43.0%
カナダ	268,844	99.0%	38.7%
グアテマラ	130,313	89.4%	7.5倍

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1005.90

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) 米国のトウモロコシの国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1005.90

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

【貿易動向：コーンスターチ】

10月の輸出量は前年同月から大幅に減少するも、前月よりわずかに増加

2021年10月の米国のコーンスターチ輸出量は、1万5506トン(前年同月比18.0%減、前月比2.4%増)と前年同月から大幅に減少したものの、前月よりわずかに増加した。同月の主要国別輸出量は、表5の通りである。

同月の輸出価格(FAS)は、1トン当たり630.5米ドル(7万3138円、同20.0%高、同0.9%安)と前月よりわずかに下落したものの、21年前半の水準を維持し前年同月から大幅に上昇した。

表5 米国のコーンスターチ輸出量(10月)

輸出先	輸出量(トン)	前年同月比(増減率)	前月比(増減率)
合計	15,506	▲18.0%	2.4%
うち メキシコ	10,336	▲22.2%	7.5%
カナダ	3,479	▲17.4%	▲16.5%
英国	399	2.6倍	3.0倍
アイルランド	226	58.0%	-
中国	178	9.9%	▲27.0%
豪州	141	▲39.5%	1.4%

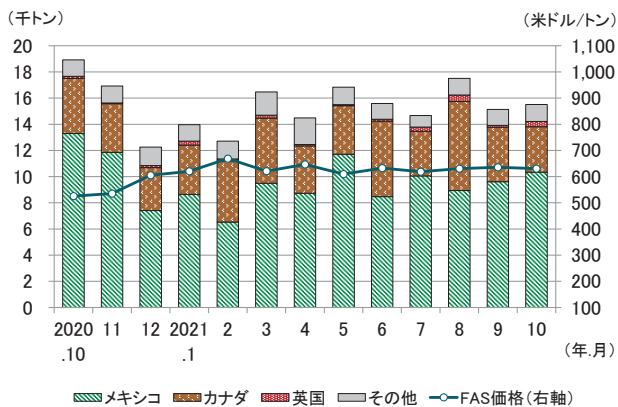
資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1108.12

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

注3：「-」は、輸出実績なし。

(参考) 米国のコーンスターチの国別輸出货量および輸出価格の推移



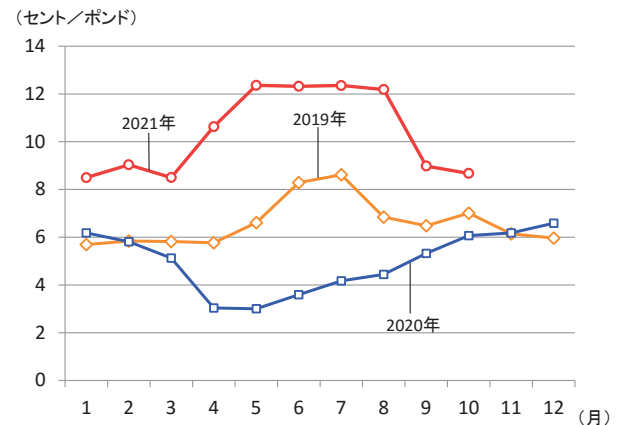
資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1108.12
 注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出货量（累計）上位3カ国を表示。

なお、米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、同国の代表的市場の一つである中西部市場における2021年10月の製粉業者の純費用は、1ポンド（注）当たり8.68セント（10.1円、前年同月比43.0%高、前月比3.4%安）と前月よりやや下落

したものの、依然として前年同月比では大幅に上昇し、高い水準となった。

(注) 1ポンドは約0.45キログラム。

(参考) 米国中西部市場における製粉業者の純費用の推移



資料：USDA/ERS
 注：価格は米国中西部市場における製粉業者の純費用（Net Cost）。
 なお、純費用については、トウモロコシ1ブッシェル当たり平均31.5ポンド（1キログラム当たり約0.56キログラム）のでん粉が含まれているものとして、計算されている。

タピオカでん粉

タイ

【生産動向】

2021/22年度のキャッサバ生産量は前年度からわずかに増加する見込み

タイ農業協同組合省農業経済局（OAE）の2021年12月現在の予測によると、2021/22年度（10月～翌9月）のキャッサバの収穫面積は966万ラ

イ（155万ヘクタール^{注1}、前年度比1.4%減、前月比0.1%減）、単収は1ライ当たり3.39トン（同2.1%増、同0.3%増）、生産量は3273万トン（同0.7%増、同0.1%増）と見込まれている（表6）。

(注) 1ライを約0.16ヘクタールとして農畜産業振興機構が換算。

表6 タイのキャッサバの生産見通し

区 分	-単位-	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
				(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	(万ライ)	892	980	967	966	▲1.4%
単収	(トン/ライ)	3.25	3.32	3.38	3.39	2.1%
生産量	(万トン)	2,900	3,250	3,269	3,273	0.7%

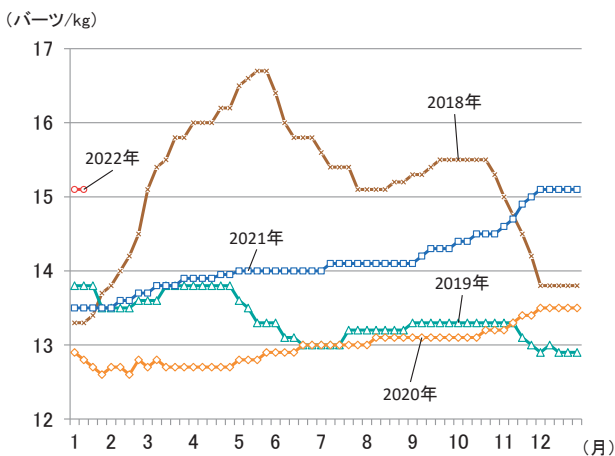
資料：OAE『農業経済2021年12月』
 注：年度は、10月～翌9月。

【価格動向】

国内価格、上昇基調が持続し、1キログラム当たり15バーツ台で推移

タイタピオカでん粉協会（TTSA）によると、2022年1月第2週のタピオカでん粉の国内価格は、1キログラム当たり15.1バーツ（53円、前年同期比11.9%高、前週同）と前年同期からかなり大きく上昇した（図3）。タイ農業・農業協同組合銀行（BAAC）研究・イノベーション開発センターによると、引き続き輸出需要の高まりなどを受けて、キャッサバ製品価格は上昇傾向で推移している。

図3 タイのタピオカでん粉国内価格の推移



資料：TTSA「Weekly Tapioca Starch Price」
注：当該週の原則火曜日の価格。

【貿易動向】

11月の輸出量、前年同月からやや増加するも、前月よりわずかに減少

2021年11月のタピオカでん粉輸出量は、28万483トン（前年同月比5.2%増、前月比0.6%減）と、前年同月からやや増加したものの、前月よりわずかに減少した。同月の主要国別輸出量は、表7の通りである。

同月の輸出価格（FOB・バンコク）は、1トン当たり487.0米ドル（5万6492円、同5.3%高、同1.5%高）と、前年同月からはやや、前月からはわずかに上昇した。

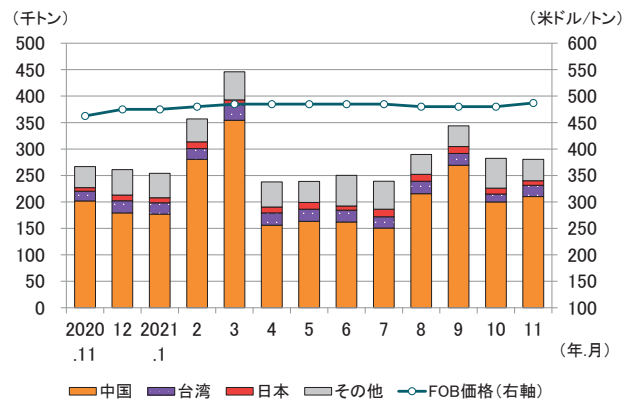
現地調査会社などによると、引き続き中国でタイ産キャッサバ製品への需要が高いことが、高値基調持続の一因であると考えられている。

表7 タイのタピオカでん粉輸出量（11月）

輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	280,483	5.2%	▲0.6%
うち 中国	210,161	4.0%	5.1%
台湾	21,239	15.4%	42.4%
日本	8,772	35.4%	▲21.3%
マレーシア	7,602	5.3%	▲10.5%
米国	6,899	14.7%	▲64.8%
フィリピン	5,840	44.5%	▲26.4%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：HSコード1108.14
注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

（参考） タイのタピオカでん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」、TTSA「Weekly Tapioca Starch Price」
注1：HSコード1108.14
注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。
注3：価格はバンコクのFOB価格。

ベトナム

【生産動向】

主産地で2021/22年度のキャッサバの作付けが進む

ベトナムの調査会社（AgroMonitor）によると、2021/22年度（8月～翌7月）のキャッサバ作付面積は、同国で最もキャッサバ生産が盛んである南部中央高原地域のザライ省で7万ヘクタール台と予

測されている。単収は、作付け初期の乾燥気候やその後の豪雨による根腐れなどから減少する見込みであるが、農家は11月現在、キャッサバの植え替え作業を行っている状況にある。

ザライ省に次ぐキャッサバの産地である南部南東地域のタイニン省では、キャッサバ作付面積は6万ヘクタール台と予測されており、キャッサバモザイク病^(注1)に耐性があり高単収が見込まれる品種が植え付けられる予定となっている。

なお、キャッサバモザイク病は11月18日現在、中央直轄5都市および58省のうち1市22省（前月同）などの合計6万2588ヘクタール（10月21日比21.6%減）で感染が確認された^(注2)。

(注1) ウイルスの感染によって葉に黄化斑ができる病気で、光合成が十分に行われず、最悪の場合には作物自体が枯れてしまうことから、収穫量が大幅に減少する。ベトナムのほかに、近隣国のタイやカンボジアの一部で流行が確認されている。

(注2) 同国のキャッサバ作付面積は、近年、おおむね50万ヘクタール程度で推移している。

【貿易動向】

11月の輸出量は前年同月からはやや、前月からは大幅に増加

AgroMonitorによると、2021年11月のタピオカでん粉輸出量は、24万5138トン（前年同月比5.6%増、前月比59.8%増）と前年同月からはやや、前月からは大幅に増加した。同国の主要国別輸出量は、表8の通りである。

同月の輸出価格（CFR^(注)・中国向け）は、1トン当たり497米ドル（5万7652円、同17.5%高、同1.4%高）と、前年同月から大幅に、前月からはわずかに上昇した。

(注) Cost and Freightの略。輸入港までの海上運賃を売主が負担し、危険負担は物品を引き渡した際に売

主から買主に移転される取引条件であり、コンテナ輸送貨物に使われることが多い。

表8 ベトナムのタピオカでん粉輸出量（11月）

輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	245,138	5.6%	59.8%
うち 中国	240,126	5.8%	59.8%
台湾	2,740	19.0%	91.2%
フィリピン	703	▲56.4%	-
シンガポール	545	82.3%	9.7倍
南アフリカ	253	2.0倍	-
豪州	102	NA	前月同

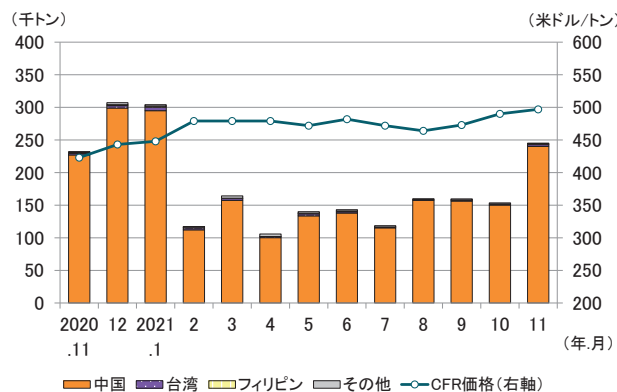
資料：ベトナム関税総局のデータを基に AgroMonitor 作成

注1：HSコード1108.14

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

注3：「NA」は事実不明なもの、「-」は、輸出実績なし。

(参考) ベトナムのタピオカでん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：ベトナム関税総局のデータを基に AgroMonitor 作成

注1：HSコード1108.14

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

注3：輸出価格は、中国向け CFR 価格。

ばれいしょでん粉

E U

【貿易動向】

10月の輸出量、前年同月から大幅に、前月からはかなりの程度増加

2021年10月のばれいしょでん粉輸出量^(注)は、3万4973トン(前年同月比39.1%増、前月比6.0%増)と前年同月から大幅に、前月からはかなりの程度増加した。同月の主要国別輸出量は、表9の通りである。

また、同月の輸出価格(FOB)は、1トン当たり572ユーロ(7万5504円、同10.3%安、同3.3%高)と前年同月からかなりの程度下落したものの、前月よりやや上昇した。

(注) EU27カ国による輸出。輸出先の不明なものを除く。

表9 EUのばれいしょでん粉輸出量(10月)

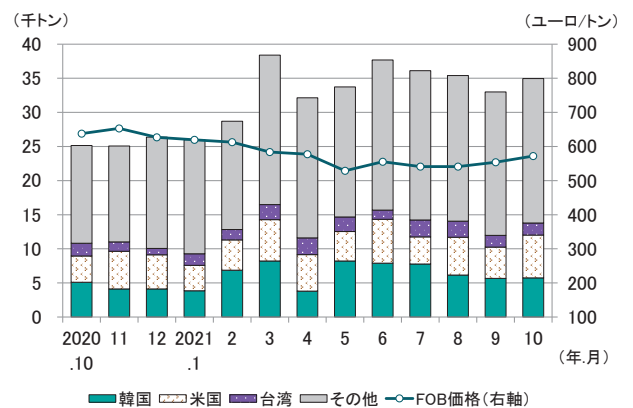
輸出先	輸出量(トン)	前年同月比(増減率)	前月比(増減率)
合計	34,973	39.1%	6.0%
うち 米国	6,271	62.7%	36.6%
韓国	5,746	12.6%	1.4%
台湾	1,762	▲5.3%	2.6%
英国	1,702	28.0%	▲25.9%
南アフリカ	1,656	21.8倍	71.3%
中国	1,524	3.7倍	41.2%

資料:「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1108.13

注2: 国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) EUのばれいしょでん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料:「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1108.13

注2: 国別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

注3: 輸出先の不明なものを除く。

コラム ラトビアのでん粉原料用ばれいしょ、ばれいしょでん粉の需給動向

日本の約6分の1の国土面積を有するラトビアは、欧州の中央部に位置することから運輸業が主要産業となっているほか、中東欧の主要なばれいしょでん粉生産国の一つとしても挙げられる。ラトビア中央統計局によると、2020年の同国のばれいしょ生産量は約38万トンであり、これを地域別に見ると、最も生産が盛んな地域は、南部のゼムガレ地域(約14万トン)で全体の37%を占めた(コラム-図1)。これに続くのは、首都リガを囲むピエリガ地域(約8万トン)で同21%、北部のヴィゼメ地域(約7万トン)で同19%であった。

ラトビア農務省によると、近年、同国のでん粉原料用ばれいしょの作付面積は増加傾向にあり、2016年には670ヘクタールであったものの、2020年には1000ヘクタールとなった(コラム-表)。作付面積の増

コラムー図1 ラトビアのばれいしょの主産地（2020年）



資料：ラトビア中央統計局の資料を基に農畜産業振興機構作成

加に伴い、ばれいしょの加工量も増加しており、2016年には1万3460トンであったが、2020年には約1万9460トンとなった。一方、単収は増減を繰り返しており、過去5年間でみると1ヘクタール当たり約17~24トンで推移している。これは、干ばつなどの気候条件や害虫の発生状況に左右されるほか、慣行農業と比較して単収が低い有機農業を選択する生産者数が年々増加していることが背景となっている。

ラトビア唯一のばれいしょでん粉製造企業であるAloja Starkelsen社は、同国内のみならず、エストニアやリトアニアなど近隣諸国の農家とも契約を結び、でん粉原料用ばれいしょを調達している。同社のばれいしょでん粉生産量は2017年以降、毎年増加傾向で推移しており、2020年は約4400トンとなった(コラムー図2)。同社は有機ばれいしょでん粉製造も行っており、欧州の主要な有機ばれいしょでん粉製造企業の一つとして位置付けられている。欧州の有機農業は、環境保護やアニマルウェルフェア(動物福祉)への配慮、消費者の健康志向の高まりなどを受けて成長しており、ラトビアでも慣行農業との比較において低単収にあるものの、有機農業を採用する生産者数や作付面積は増加傾向にあり、今後も増加基調は持続すると見込まれている。

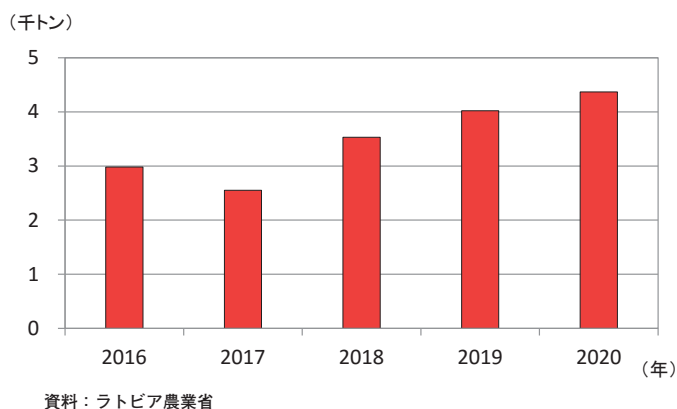
コラムー表 でん粉原料用ばれいしょの生産動向

(単位：戸、ha、トン/ha、トン、%)

		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
生産者数	全体	96	101	147	149	150
	有機	57	59	92	104	106
	慣行	39	42	55	45	44
作付面積	全体	670	740	920	1000	1000
	有機	270	340	430	620	680
	慣行	390	400	480	380	320
単収	全体	23.5	16.7	18.4	19.0	19.4
	有機	19.0	11.2	18.3	15.7	15.5
	慣行	25.8	21.4	18.5	24.4	27.6
加工量	全体	13,460	12,310	16,880	19,090	19,460
	有機	3,630	3,850	7,930	9,800	10,550
	慣行	9,830	8,450	8,950	9,290	8,910
でん粉含有率	全体	19.5	19.7	20.1	20.3	19.5
	有機	18.2	18.9	20.2	20.2	19.7
	慣行	19.6	19.8	20.0	20.4	19.2

資料：ラトビア農業省

コラム-図2 ばれいしょでん粉の生産量の推移



化工でん粉

デキストリンおよびその他の化工でん粉（以下「化工でん粉」という）の主要輸出国による主要仕向け先国別輸出力および輸出価格は、以下の通りである。

タイ

【貿易動向】

11月の輸出力、前年同月からかなりの程度、前月からはわずかに増加

2021年11月の化工でん粉の輸出力は、8万9281トン(前年同月比10.6%増、前月比1.1%増)と前年同月からかなりの程度、前月からはわずかに増加した。同月の主要輸先国別の輸出力は、表10の通りである。

表10 タイの化工でん粉輸出力 (11月)

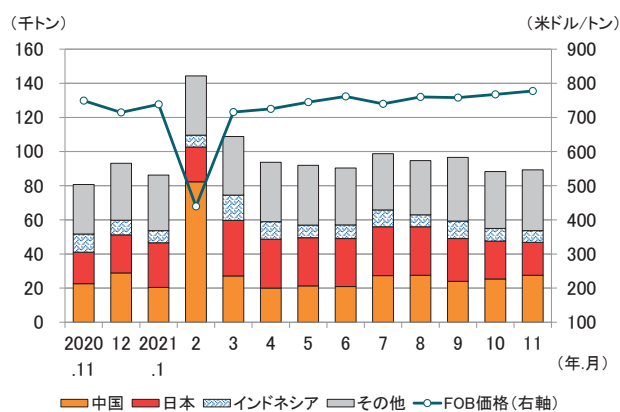
輸先	輸出力 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	89,281	10.6%	1.1%
うち 中国	27,493	21.7%	8.5%
日本	19,339	5.0%	▲12.9%
韓国	7,217	11.8%	37.0%
インドネシア	6,834	▲36.2%	▲7.2%
インド	5,351	2.1倍	13.9%
ベトナム	3,376	▲3.3%	43.5%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出力上位6カ国を表示。

(参考) タイの化工でん粉の国別輸出力および輸出価格の推移



米 国

【貿易動向】

10月の輸出量、前年同月からかなりの程度増加するも、前月よりかなりの程度減少

2021年10月の化工でん粉の輸出量は、2万6847トン(前年同月比10.4%増、前月比8.7%減)と前年同月からかなりの程度増加したものの、前月よりかなりの程度減少した。同月の主要国別輸出量は、表11の通りである。

表11 米国の化工でん粉輸出量 (10月)

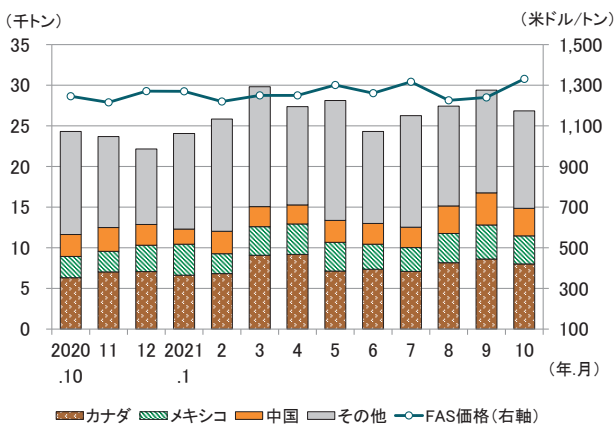
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	26,847	10.4%	▲8.7%
うち カナダ	8,021	26.9%	▲7.1%
メキシコ	3,446	31.2%	▲17.4%
中国	3,387	25.5%	▲14.6%
豪州	1,242	77.2%	▲29.8%
コロンビア	942	39.8%	43.2%
英国	830	2.3倍	29.7%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) 米国の化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

中 国

【貿易動向】

11月の輸出量、前年同月および前月から大幅に増加

2021年11月の化工でん粉の輸出量は、8084トン(前年同月比45.7%増、前月比22.5%増)と前年同月および前月から大幅に増加した。同月の主要輸出先国別の輸出量は、表12の通りである。

表12 中国の化工でん粉輸出量 (11月)

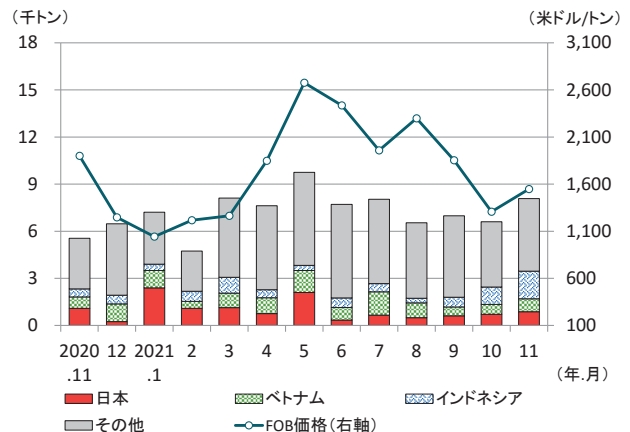
輸出先	輸出量 (トン)	前年同月比 (増減率)	前月比 (増減率)
合計	8,084	45.7%	22.5%
うち インドネシア	1,763	3.4倍	60.3%
日本	869	▲20.1%	22.7%
ベトナム	829	14.0%	30.1%
マレーシア	780	2.2倍	38.8%
台湾	594	10.2%	23.2%
韓国	503	2.3倍	58.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) 中国の化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

E U

【貿易動向】

10月の輸出量、前年同月からはずかに、前月からはかなりの程度減少

2021年10月の化工でん粉の輸出量^(注)は、5万844トン(前年同月比2.1%減、前月比9.5%減)と、前年同月からはずかに、前月からはかなりの程度減少した。同月の主要輸出先国別の輸出量は、表13の通りである。

(注) EU27カ国による輸出。輸出先の不明なものを除く。

表13 EUの化工でん粉輸出量(10月)

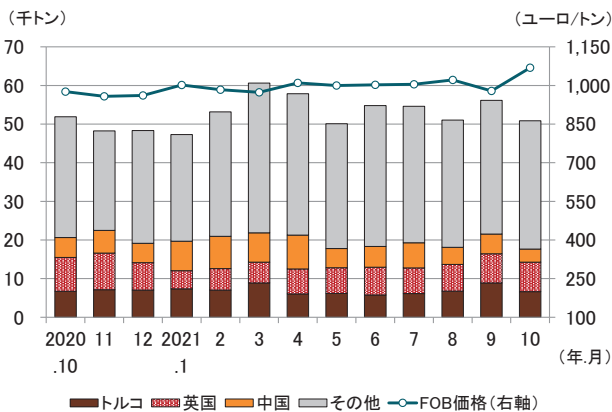
輸出先	輸出量(トン)	前年同月比(増減率)	前月比(増減率)
合計	50,844	▲2.1%	▲9.5%
うち 英国	7,627	▲12.7%	1.4%
ロシア	6,744	2.3%	3.8%
トルコ	6,642	▲1.3%	▲25.5%
日本	4,549	40.9%	13.6%
中国	3,400	▲34.1%	▲33.6%
米国	2,632	17.8%	23.0%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位6カ国を表示。

(参考) EUの化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

注3：輸出先の不明なものを除く。

豪州

【貿易動向】

10月の輸出量、前年同月からはやや、前月からはかなりの程度減少

2021年10月の化工でん粉の輸出量は、3338トン(前年同月比3.8%減、前月比9.7%減)と前年同月からはやや、前月からはかなりの程度減少した。同月の主要輸出先国別の輸出量は、表14の通りである。

表14 豪州の化工でん粉輸出量(10月)

輸出先	輸出量(トン)	前年同月比(増減率)	前月比(増減率)
合計	3,338	▲3.8%	▲9.7%
うち 米国	2,394	▲2.0%	▲9.0%
日本	781	31.7%	▲14.7%
ニュージーランド	97	▲58.5%	▲25.4%
台湾	36	2.0倍	—
タイ	18	—	18.0倍
中国	8	▲95.6%	—

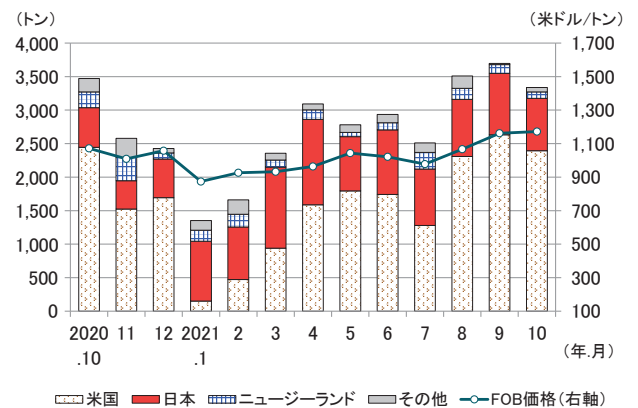
資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、当該月の輸出量上位5カ国を表示。

注3：「—」は、輸出実績なし。

(参考) 豪州の化工でん粉の国別輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード3505.10

注2：国別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。